

＜先週の説教から＞

『ルカ ④ — 敵を愛し、祝福を祈ること』

武田真治牧師

出エジプト 22:24～26 ルカ福音書 6:27～31

旧約聖書とイスラエルの歴史に於いては、レビ記 19 章 18 節にあります「自分を愛するように隣人を愛しなさい」という言葉が、旧約の律法＝十戒を貫く教えとして新約でも度々語られてきました。イエス様も「永遠の生命」を得るために「心を尽くし、思いを尽くして主を愛し、隣人を自分のように愛しなさい」と教えておられます。それに対して、ある律法の専門家が『（その場合の）隣人とはだれですか？』と尋ねて来た時に、話されたのが有名な『良きサマリア人のたとえ』です。当時、サマリア人はユダヤ人から他民族との混血だと侮辱され、虐げられていたのに、強盗に襲われ傷ついたユダヤ人を助けてあげたというお話でした。これこそ「敵をも愛する」ことを教えられたたとえ話です。このように「敵を愛しなさい」という教えは“イエス様特有の教え”と言い得るのです。ただ、それだけに昔から、この教えは現実離れしている、キリストは単なる理想主義者・夢想家に過ぎないと批判されて来たのでした。そうなのでしょうか？

実はイエス様は直前の 22 節で「人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき」があると言われています。人の子＝イエス様を信じることで、その地の共同体から“排除（＝村八分）”される現実がありました。それでも「（憎まれても）敵を愛し」「（追い出されても）親切にし」「（ののしられても）祝福を祈り」「（汚名を着せられても）祈ってあげる」という一つ一つ実際的対応を教えておられるのです。つまり、迫害されることを前提にしながら、その相手を恨み、復讐を考えるのではなく、その相手を「愛し、祈る」という在り方で返していくようにという教えなのです。決して夢物語ではありません。

大事な点は、相手から為された行為を忘れよ、赦せとは言われていない点です。復讐で返すのではなく、尚、その存在を「愛すること、祈ること」は出来るはずだと言われている

のです。それがまさに十字架上でのイエス様の御姿でした！

このイエス様の言葉と行動が、後のキリスト教にどんな影響を与えて行ったのかと申しますと、AD70 年にローマ帝国によってエルサレムが陥落させられ、イスラエル王国が滅ぼされ、住んでいたユダヤ人達は世界中に散らばる（＝ディアスポラ）状況になったとき、ユダヤ教徒たちは、いつか自分たちの国を再興することに邁進し、より固い結びつきを形造って行ったのですが、ユダヤ人キリスト者たちはそのローマ人達を恨むことに凝り固まることなく、この「敵を愛せよ」との教えに従い、困難や苦しみを与えられながらも、入って行ったことで信仰が世界中に広まっていったのでした。その“原動力”になった言葉がこのイエス様の言葉なのです！

\*\*\*\*\*

【今週の集会】

\*聖書研究・祈祷会 I. 7 月 16 日（水）20:00

II. 7 月 17 日（木）10:30

聖書研究：ローマの信徒への手紙

祈祷主題：婦人会の活動を覚えて

担当者：（水）大竹 （木）長田

祈りに覚える人：松下さん 松田さん

ハンナの会：7 月 15 日（火）10:30～

【教勢報告】

主日礼拝 男 18 女 49 計 67

祈祷会 I. 男 3 女 2 計 5 II. 男 1 女 8 計 9

日曜学校 幼稚科 4 小中科 10 計 14

\*\*\*\*\*

【次週主日礼拝】 7 月 20 日（日）

聖書：箴言 20:22～24

ルカによる福音書 6:31～36

説教：「ルカ ④—見返りを求めることなく」

武田真治牧師

讃美歌：6(1)、32、149、566、453、29(1)

【次週当番表】

司式：岩佐長老 奏楽：羽倉長老 礼拝：茨木長老

献金：鈴木 須田 受付：飯島 吉岡

会堂準備：木村 小杉 富澤 長田

橋本 北條

看板：曾我 週報：吉岡 お花：羽倉

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後：・牧師と語る会 ・お茶の会 ・SS 教師会

・オリブの葉編集委員会

66 - 28

# 週報

2025 年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025 年 7 月 13 日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見 2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549